

遠藤郁子ピアノ・リサイタル

～亡夫 田中克己を偲んで～

能の演目に見立てたショパンの音霊が幽玄の世界に響く。
いのちの深淵を見たピアニストが紡ぎ出す魂の音楽。

Ikuko Endo Piano Recital

ショパン

ノクターン 第5番 嬰ハ長調 op.15-2 「高砂」^{たかさご}

ノクターン 第7番 嬰ハ短調 op.27-1 「清経」^{きよつね}

バラード 第2番 嬰ハ長調 op.38 「箬」^{えびら}

ノクターン 第13番 ハ短調 op.48-1 「巴」^{ともえ}

バラード 第3番 変イ長調 op.47 「杜若」^{かきつばた}

ノクターン 第17番 ロ長調 op.62-1 「羽衣」^{はごろも}

バラード 第1番 ト短調 op.23 「葵上」^{あおいのうえ}

ノクターン 第15番 嬰ハ短調 op.55-1 「俊寛」^{しゅんかん}

バラード 第4番 嬰ハ短調 op.52 「通小町」^{かどいこまち}

ノクターン 第18番 ホ長調 op.62-2 「泰山府君」^{たいさんぶく}

*曲目、曲順は変更となる場合がありますので予めご了承ください。

「ショパン序破急幻」

能写真・田中克己



2016年9月15日(木) 7:00PM開演 (6:30PM開場)

ふきのとうホール

六花亭札幌本店6階(札幌市中央区北4条西6丁目)※JR札幌駅南口から徒歩3分

¥5,000(全席指定・税込)*未就学児童の入場はご遠慮ください。

[5月27日予約・前売開始]

[チケット取扱い]

- チケットぴあ 0570-02-9999 (Pコード/297-863)
- ローソンチケット 0570-000-407
*Lコード予約 0570-084-001 (Lコード/12261)
- 大丸プレイガイド(南1西3) 011-221-3900
- 道新プレイガイド 011-241-3871
- イープラス <http://eplus.jp>

[ご予約・お問合わせ]

オフィス・ワン ☎011-612-8696

[予約受付10:30~18:00土・日・祝日休]

<http://www.officeone.co.jp/>

■主催:遠藤道子記念音楽館

- 後援:ポーランド大使館
ポーランド広報文化センター
日本ショパン協会
札幌市
札幌市教育委員会
北海道新聞社
北海道ポーランド文化協会
学校法人光塩学園
NPO法人まざるか北海道

■協力:(株)ヤマハミュージックリテイリング札幌店

Ikuko Endo

Piano Recital



田中克己と／CD『ショパン空風火水地』ジャケット撮影にて(1997年)

遠藤郁子

若き日、戦場カメラマンとしてジャングルをさ迷い続けた田中克己に、知りあったばかりの私は「日本が戦争になったらどうする?」と問いました。田中は「ボクはまっ先にスタコラ逃げるね」と答えました。「どうして?若い男が祖国を守らなくて誰が守る?」私は若き日ポーランドにあって、若い兵士が私に愚痴をこぼした時と同じ返事を吐きました。それに対し田中は「それは戦争を知らない人間の言うことだ。極限まで追いつめられたらどんな残酷なことだってするのが、人間というものだ。2度とあんな光景は見たくない。そんな女学生みたいなこと、言うなよ」と重ねました。マラリアで骨と皮になり、米軍の遺体と共に横田基地へ戻った彼は、回復後、大学へは戻らずパリへ渡り「人間はなぜ戦争をするのか?」というテーマで心理学を学んだ後、帰国して「あの世」をテーマとする能のカメラマンとして、ぼう大な作品を残しました。田中と知り合った1990年当時、私は音楽活動の他、日に日に重くなる夫の介護に加え、先妻の子供たちの莫大な借金の取り立てによるストレスで、既にガンを発症していましたが、そんな私を初対面の田中は無言のうちに瞬時に見抜き、以来凄まじい力で私を「生」の方向に引っばってくれました。「郁子さんの姿は、銃口を向けられた戦地の子供たちの姿だった。僕は昔のように銃口の前に立ちほだかろう、と思ったよ」。

CD『ショパン序破急幻』は、そんな私たちふたりの体験が生んだ作品です。そこには能のあの世、略血をくり返したショパンのあの世、そして私たちふたりがそれぞれに体験した「4つのあの世」があります。

入籍わずか18ヶ月で急逝した田中の三回忌にあたり、この『ショパン序破急幻』の献奏で彼への供養としたいと願っています。

「夫・田中克己を偲ぶ」

遠藤郁子 Ikuko Endo

「90才の人生で初めて靈感で弾かれたショパンを聴いた(20世紀最後の巨匠ヴラド・ベルルミュテル)」、「イクコ・エンドウ偉大なるピアノの才能(巨匠アルトゥール・ルビンシュタイン)」、「今までイクコ・エンドウほど感動させられたピアニストはいない(ロンドン・デイリー・テレグラフ紙)」、「日本人唯一のショパン弾き(ワルシャワ・フィル音楽総監督カジミエシュ・コルト)」、「50才を過ぎて咲いた花は人の命をも救う(人間国宝・金春信高～松本サリン事件の奇跡に際し)」、「天啓の音(文化功労者・畑中良輔)」と世界から絶賛される遠藤郁子の演奏は、「作曲者の魂を伝えるピアニスト」として内外に根強いファンを持つ。

札幌にて3才よりピアニストの母、遠藤道子(ポーランド文化功労勲章、文部省地域功労賞、北海道開発功労賞、北海道文化賞、他受賞多数、日本ショパン協会北海道支部創設者)に音楽の手ほどきを受け、東京芸術大学附属高校へ入学後、毎日新聞社主催「日本音楽コンクール」で北海道出身者初の受賞。東京芸術大学に入学後、1年の時に「安宅賞」を受賞し、日本代表として第7回ショパン国際ピアノコンクール(1965ワルシャワ)に出場し特別銀賞を授賞、一躍注目を集め、オストロクシキ宮殿でのデビューリサイタルで「偉大で小柄な日本娘」のタイトルで絶賛された。ポーランド国営テレビ・ラジオに録音多数。世界的ショパン奏者ステファンスカ夫妻に見い出され、その内弟子として5年間更なる研鑽を積む。1974年からパリ在住。ヴラド・ベルルミュテルにラヴェル全作品の指導を受け、フランス国営テレビ・オーデションにて最高位を収め、同局に録音を残す。その間、激賞されたロンドン・デビュー、パリ・デビューの他、北米、旧ソビエ

ト、ハンガリー、ルーマニア、東ドイツで演奏。特にユーゴスラビアには毎年招かれ、巨匠アルド・チッコリーニの夏期講習(オフリッド)を受け継ぎ、長年にわたり講師を務めた。その功で、オフリッド25周年功労賞を受賞。帰国後は、東京芸術大学講師、聖カタリナ大学客員教授を務めるかわら活発な演奏活動を行う。特にCD「ショパン序破急幻」が松本サリン事件で植物人間状態となり眠り続けた女性の意識を覚醒した奇跡は、連日マスコミで大きく報道され、東京サントリーホールでのチャリティコンサートの収益600余万円が、5,000人のサリン患者のため寄付された。これまで共演したオーケストラは、ワルシャワ・フィル(定期)、クラクフ・フィル(定期)、ハンガリー国立フィル、グルノーブル市立オケ、N響、読響、日フィル、新日フィル、東響、東フィル、都響、札響、京響、大フィルなど多数。また、ショパン国際ピアノコンクールをはじめ多数の音楽コンクールの審査員を務める。NHK教育テレビ・NHKラジオの番組「こころの時代」に幾度も出演し、自らの人生を通じて「こころ」の問題についても語っている。CD、著作多数。2000年にはポーランド国家プロジェクト「ショパン全曲演奏」(於東京・上野田奏楽堂、ポーランド大使館・同奏楽堂共催)の演奏に対して、ポーランドのショパン年実行委員長(文化芸術大臣兼務)からショパンのブロンズ像を授与された。

2014年にはデビュー50周年を迎え記念リサイタルを札幌と東京で開催。2015年にはポーランド共和国の文化功労者としてポーランド共和国聖十字功労勲章を叙勲する。日本ショパン協会理事。NPOまざるか北海道理事長。遠藤道子記念音楽館館長。